



H28 年度全定期考査終了!!

向陽生の皆さん、2月がもう終わりますね。先週は学年末考査の返却ラッシュに見舞われ、週末は誤答ノートの作成に追われたことでしょう。ちなみに3年生は県内はもとより、県外各地(寒い)で前期試験を迎えておりました。彼らがこれまでの努力の成果を発揮できていることを願っています。

さて、話を戻しまして。学年末考査の結果はいかがでしたか？ 勉強をがんばったのに、期待したように点数が取れなかった、という人はいませんか？ 今一度勉強について、皆さんの参考になりそうなお話を紹介しますので、これからの授業の受け方や勉強方法に取り入れてみてはどうでしょうか。

～NHKテストの花道より(抜粋)～

「花道流定期テスト必勝法！」編 より： BENBU 部員を対象に行ったアンケートでも、テスト結果に満足している人、満足していない人、どちらのアンケートでもテスト対策として第1位だったのが、『問題を解く』こと。つまり、同じテスト対策を行っていても、結果が変わってきているのだ。その違いは何だろうか。

定期テスト対策で重視している勉強法は？

結果に満足している人	結果に満足していない人
1 問題を解く	1 問題を解く
2 授業をしっかり聞く	2 単語・用語・公式などを覚える
3 教科書・ノート・プリントなどを見る	3 教科書・ノート・プリントなどを見る
4 単語・用語・公式などを覚える	4 授業をしっかり聞く
5 ノートにまとめる(ノートを作る)	5 ノートにまとめる(ノートを作る)

(番組調べ)

国数英の3教科でクラス1位の水越くん(高1)の場合：
テスト対策として、試験範囲の問題を解くことを実践している。

一通りテスト範囲の問題を解いた後、間違えた問題は、解説を読んで正しい解法を書き込む。これでテスト対策はおしまい！という人も多いはず。しかし問題を解き終わった水越くんは、答えがあっているかをチェックしながら赤い記号を付けていた。大事なのは、正しい答えを導くための「考え方」を身につけること。赤い記号を付けながら、水越くんはそれを確かめていたのだ。

水越くんがさらに取り組んでいるのは「できなかった”を繰り返す”こと。間違えた問題については、入念な「まとめノート」を作る。まずは、問題文を書き、その下に問題を解くポイントを書き、さらに正しい解法を書く。そして、ここでも必ず書き込むのが、問題を解く上で重要だと感じた自分の考え。

「授業が身につくノート術」編 より：「楽する種」は「予習」。予習と聞いて「無理」「面倒だ」と思ったキミ。実はお手軽な予習方法があるぞ。それは「教科書を読む」こと。机にむかって長時間の予習をしなくても、空いた時間に教科書を読むだけで、授業の理解度は変わってくる。



◆予習のポイント

自分が「知らない」「分からない」という部分を確認しておくこと。その上で授業を受ければ、驚くほど理解が深まるぞ。

～ 花道の先輩からのアドバイス ～

◆<社会>3分程度でもいいので予習をしておくと、集中して聞く部分分かるなど、メリハリをつけて授業を聞くことができる。

◆<古文・漢文>前回の授業をチェックしておくと、どこが大事なポイントで話がどこまで進んでいるか分かった上で聞けるので、スムーズに授業に入ることができる。

◆<暗記系の科目>情報量が多いので予習していないと授業中に書く量が増える。予習していれば、あとで教科書を見ればいいポイントがわかる。

定期試験で思うように点が取れません…。
どう勉強すれば良いでしょう。

高1生お悩み相談



私は偏差値 60 程度の高校に通っているのですが、模試では最低でも校内偏差値 65 はあるのに対し、定期試験はほとんど平均以下とからっきしなのです。現在の第一志望は大阪大学なのですが、基礎的な問題で点を落としてはいまず受からないと思うので、定期試験で点が取れないことに危機感を感じていますが、思うように点が取れません。(難易度自体はそれほど高くない、らしいです)これからどう勉強していけばよいのでしょうか？

～(略)～ 全国偏差値から考えてみると、定期考査が平均点に届かないのは、ある程度納得できる数字のように感じるが、どうだろう？ 今の高校に入学しているのだから、中学時代はしっかり勉強していたのだろう。ただ、その中学時代の余力はもう使い果たしてしまったようだね。間違っていたらごめんね。もしかすると**中学時代は「勉強＝暗記」**が中心の勉強ではなかったかな？ **高校の勉強って、筋道立てて解答までのプロセスをしっかりと理解することが必要になるのだ。**「プロセス」が本当に大事なのだ。

そこで、高2が始まるまでの約1か月半で、勉強のスタイルを変えてみよう。プロセスを意識した勉強に変えるのだ！ 勉強していて分からない問題が出てきたら、まずは自力で考える。どうしてもダメならば先生に頼ろう。説明を聞いて理解できたら、帰宅後にその**説明を全て自分で言えるか確認**すること。つまり「君が先生になる」ことを目指すのだ。当然先生の説明は分かりやすく、筋道立てて話してくれるはずだからだ。

そして、この後も大事。間違えたのと同じような問題を先生からもらって演習をする。この時点で自力で解けたら、君が知らなかった知識が定着したことになる。これで基礎力が定着できるようになるので、高2になってからの模試にその成果が現れるはずだ。まもなく学年末試験もあるので、それが終わってから、これまでの**1年間でやった模試を全て満点取れるまでやり直して**みたらどうだろう。高1で習った全ての範囲が入っているのだから、君の苦手箇所を知る良い機会になるはずだ。

最後に… 第一志望の大学に合格できた人へアンケートをとると、「**基礎力**をしっかり身につけたことが**合格**につながった」というのが間違いなくベスト3に入っているのだ。特に上位の大学に合格した人はなおさらだ。上位の大学だと難問を解く力をつけなければならないと思うかもしれないが、(もちろんそれも大事だが) 基礎をしっかり固めてコツコツ得点を重ねることが合格への近道だということを感じておこう。～(略)～

2年生へ 特別連載コラム①

なぜ小説を「学ぶ」必要があるのか？
羅生門、山月記、こころ、そして

福田 園子

最初に言うておくが、「どうしてこれを勉強しないとイケないのか？」という問を、私は愚問だと考えている。この問には、「理由を説明しろよ。納得いったら勉強してやってもいいけどよ」という不遜な態度が透けて見えるからである。しかし、諸兄の眼前に山積する大量の課題に埋もれながら、そんな問を叫びたくなる気持ちも分からないでもない。ここに、現代文「小説」の視点から「なぜこれを学ぶ必要があるのか？」を今一度考察し、諸兄へ詳らかに説明せんことを期して筆を執る。

人類は昔から、妖怪や幽霊、奇譚など異世界の物語を好み、語り継いでいった。それらが実在したか否かはここでは問わないが、「目に見えないものたち」の話の繰り返し伝承していった人間の心象とはなんだろうか。多くの場合、人間の強欲さや自己中心的な振る舞いの後、鬼は怒り、妖怪は恨み、人間を懲らしめる。物語の役割とは、我々のすぐ隣に口を開けている怪異や異形のもの達を想像することで、人智を越えたものへの畏怖や謙虚さを再認識させることではないだろうか。そして、自らの振る舞いを省み、謙虚に誠実に生きることを考えさせることではないか。想像力は、大人になってからこそ、さまざまに複雑に生きてくるスキルである。

また、物語から発展した「小説」は、出来事と出来事の間人間の生き方を描く。千年前の「宇治拾遺物語」『羅城門』の男は、倫理的な葛藤も一切なく、あっけらかんと老婆の着物をはぎ取り髪の毛も奪って逃げた。しかし、芥川はそこに近代人の葛藤や衝動、思考の変遷まで描いてみせた。「盗みをするしかない、でも…」というやつだ。『羅生門』も現実とは違う、異世界の話だと読みがちだが、あにはからんや、不安定な雇用状況や倫理観の崩壊した現代社会でも「うちあたりに」する出来事ではないか。ひとがいかに生きていくべきか？を問うのが、小説だ。